

これでわかったビットコイン

著者：斉藤賢爾 出版：太郎次郎社エディタス

そもそも編

担当：前澤 (p 58~62)

● 「貨幣」はすべて仮想のもの

☆ 「仮想通貨」という言葉のおかしさ

- ・ ビットコインは「仮想通貨」と呼ばれることがほとんどだが、この用語は正確ではない

→「貨幣」「通貨」はすべて仮想のものだから

- ・ 貨幣や通貨は仮に何かを「貨幣や通貨」と考えることによってしか生まれない

例 百円でトマトが1個買えるとした場合、私たちは「百円玉=トマト1個」という関係を仮につくっていることになる

- ・ このような関係は人間の頭の中の心理現象であり、貨幣はそれを目に見えるようにしたもの

→人々が同じ尺度で物事の価値を判断

☆ 「リアルマネー」はリアルではない

- ・ 心の作用である貨幣や通貨は、「仮想通貨」という用語を使い続けることで、現代社会の物語を強化してしまう効果がある
- ・ リアルマネーがビットコインに対してとくにリアルだということはない

● 「貨幣」はどのようにして生まれるか

☆ なぜ貨幣は使えるのか

- ・ 貨幣を生み出すための本質的な部分は「これは貨幣として信用できる」という、人々に共通の信念を創り出すこと

→貨幣が使えるのはみんながそれを貨幣であると信じているから

- ・ 法廷貨幣に対してはそのまま適用できないと考える人もいる

☆ なんだって貨幣になれる

- ・ 条件さえ満たせば、なんでも貨幣になれる

→みんながそれを貨幣だと信じればよいだけ

- ・ 貨幣が希少性であるかどうかは関係ない

☆ 巨石が貨幣になるしくみ

例 ミクロネシア連邦のヤップ島で使われていた石貨

- ・ この石貨は大理石で約500キロメートル離れたパラオで採掘され、何か月もかけて加工され、いかだで持ち帰られる。

→ここで大事なのは大変な思いをして運ばれてきたという「物語」

- コメント

今回の本を読んでみて、貨幣や通貨は仮想のものであり、私たち人間が頭の中で心理現象によって物事の価値を判断していることが分かった。正直普段何気なくそれが貨幣であるのだと、当たり前のようにお金を使っているため、貨幣が使えるのはそれが貨幣だと自分たちが信じているからと聞いても、理解しにくかった。

担当：林 (P63~67)

- ◆ 国や銀行以外が貨幣を発行していいの？

- いいんです

- ・銀行が貨幣を発行し始めたのは最近のことである。
- ・貨幣は交換を成り立たせるために自然発生的に生まれたものと考えられる。
- ・状況に応じて新しい貨幣が作られていくことは、人間の自然な営みである。

- ビットコインは地域通貨みたいなものか→違います

- ・地域通貨

- コミュニティの中での助け合いのために使われる。
- 使うことで社会に新たな競争や区別を導入しない。

- ・ビットコイン

- 決済方法として使われるコミュニティという概念はない。
- グローバルに使える現金のようなもの。
- ・法定通貨とは別の選択肢という意味では共通している。

- ◆ ビットコインでは、なぜ発行量を決めているか

- インフレ撲滅への強い意志

- ・ビットコインの発行量の上限を合計で約 2100 万 BTC と設定。
- ・供給量が次第に減るように設定。

- でもインフレって悪いこと？

- ・インフレでは富める者にとっては資産が目減りしてしまう。
- ・デフレでは富める人にとっては資産が自動的に増える。
- 富める人たちが利用して儲けようとしている。

- 貨幣はすべての商品の王さま→その王様はハダカだ

- ・貨幣は同じ価値を保有するのであれば、すべての商品の王様のような位置づけに。
- 貨幣を絶対的な地位から引きずり下ろすには、貨幣を時間が経つごとに価値が下がるように設計するなどの方法がある。
- ・ビットコインは、権力を生まない貨幣の設計とは逆方向を向いている。
- 貨幣で人々を支配したいと考えている人には夢のような技術。

<コメント>

- ・貨幣も人間と同じように変化していることを改めて知ることができた。

- ・ビットコインは交換の媒体ではなく、ただ儲かるために設計されたお金であることが分かりました。

担当：下川 (p 68~71)

【85 人=35 億人?! 「貨幣」事態の構造的欠陥】

○貨幣が生み出す強烈な格差

- ・誰もが欲しがらる貨幣を、あらかじめ多く持っていた人は、余計に貨幣が集まっていく
 - ➡欲しがらる人たちに対して、利子をつけて貸し出し、増やして返してもらう
 - ➡巨大な資産を資本として、大きなビジネスを展開し、さらに収益を上げれる
- ・貨幣は、もともとそれを多く持っている人のところに集中していく傾向がある
 - ・国際 NGO の調査により、世界の上位 85 人の持つ資産が、下半分の 35 億人分を合わせたものと同等であるという結果が出た
 - ・この差は、単なるゲームの勝敗のようなものだと考えたほうが良い
 - ➡そのゲームは繰り返しプレイされるが、常に前回の勝者に有利になるようにデザインされている

○貨幣のグローバルな流動性はどこに何を運ぶ?

- ・地域通貨イサカ・アワーズの創始者、ポール・グローバー氏は「ドルは街にやってきて何回か人々と握手したかと思うと、この地域を離れ、熱帯雨林から伐採した木材を買ったり、戦争を戦うために使われていく」と述べている
 - ➡グローバルに流通する BTC は、この点においてドルと同じように振る舞うだろう
- ・私たちは、国際的な競争にさらされている
 - ➡競争に負けると、地域の貴重な資産や資源がそこから流出する
- ・貨幣の流れだけを見て、多くの貨幣を得られたので競争に勝ったと思っても、実際にはそれが地域の重要な資源と引き換えだったというケースもあるだろう
- ・私たちの生活の現場である地域は苦境に立たされる
 - ➡国家の垣根を越えて流通する仕組みをもつビットコインが今後普及していけば、その傾向をより強化していくと考えられる
- ・その傾向を止めること、あるいは反転させることはできないのか
- ・貨幣が希少で、かつ、貨幣がなければ何もできない世の中に生きていると、私たちは、それをどうにかして手に入れなければいけなくなる
 - ➡貨幣を持っている人の言うことを聞くようになる
 - ➡自分が支配される立場におかれることを意味する

- ➡いつか大量の貨幣を手に入れられるという期待を持って、その仕組みに入っていく
- ➡自分から進んで被支配者としての道を歩んでいるようなもの
- ・「貨幣が希少であるということ」が問題
- ・希少性をさらに演出しようとしているビットコインの設計の問題点が見えてくる

【貨幣は「信用」をどこまで表現しているか】

○貨幣は信用の代替物

- ・希少ではない貨幣というのは、実現できるのか
- ・結論から言うと、貨幣は、信用や信頼感にありふれるリッチな人間関係の代替物
 - ➡貨幣がない世界で、貨幣があるのと同じようなことを実現しようとしたら…
 - ➡モノやサービスを必要としている人々のところに、それらを提供できる人々が、自発的に届けに行くことになる
 - ➡人々が互いを信頼して助け合う、リッチな人間関係のある世界
- ・私たちが知る貨幣は、人々が互いを助けるような世界を、人々の間の信用を形成することなしに実現するためのツール
- ・逆に、人間関係によって貨幣の不在を補っているのではないかという考えがあるかもしれない
 - ➡しかし、貨幣でなく、人間関係のほうが先にあったことは自明だ
 - ➡貨幣のない時代を経験している
 - ➡人類全体の歴史を考えてもそうだし、一人一人の歴史を見ても明らか

【コメント】

- ・希少性をさらに演出しようとしているビットコインの設計の問題点とはどのようなものか気になった
- ・貨幣は信用の代替物という表現にとっても納得できた。貨幣は信用があつてこそその通貨だと思っていたけれど、逆の発想で、信用をみえる形にしているのが貨幣という筆者の考えはとても素晴らしいと思った。

●信用の冰山モデル (p.71~75 担当：橋本)

p.71 [図 15] 信用の冰山モデル

- ・広い意味での人間の経済活動のうち、貨幣を扱う取引は氷山の一角
 - 水面下では広大な信用の世界がある
- ・地域通貨は信用を深めていくために役立つツール

〈「信用＝貨幣」の水面の上〉 信用対象：貨幣

ビットコイン：設計思想「(人と社会への) 信用ではなく、暗号的な証明に基づく支払いシステムをつくる」

→信用の対象が貨幣にあるということを強く示すもの

・私たちの多くは仕事と生活のほとんどの時間を「信用＝貨幣」の水面の下で過ごしている
⇒ 〈「信用＝貨幣」の水面の上〉 のツールであるビットコインなども必要なもの

→人間関係が断ち切られている状態でも役立つし、「投資」に使う

・「投資」：広い意味で、長らく価値を生み出し続けるものに自ら資産を投じること

→自分にとって一番長く続く存在＝自分自身・自分と周囲との関係

・「贈与」ほかの人のために貨幣を使うことが新たな人間関係の世界への投資となる

おわりに

「いつも心に中学生を」

・貨幣は貧困、格差、自然と生活の破壊などさまざまな問題を生んでいる

→ビットコインはそうした貨幣の問題を解決するものではない

・ビットコインが法廷貨幣とは別の選択肢として使用される姿を見て、「新しい可能性を試してもいいんだ」という理解が浸透すれば、貨幣・経済社会は、これから変わっていけるのかもしれない

コメント

表紙にビットコインは「従来の通貨の概念を 360 度変える」とあった。180 度の間違いかなと最初は思ったが、貨幣を生み出すための仕組みは「これは貨幣である」という共通の信念を作り出すという点においてどれも変わりがなく、一周回って同じであることがわかる。ビットコインの全体像が掴める一冊であった。